



CIF JAPAN

NEWSLETTER No.45

<https://cif-japan.com/>

Council of International Fellowship Japan

発行人 NPO 法人 CIF ジャパン理事長 坂本正路

編集人 坂岡隆司 発行日 2021年3月1日

事務局 〒607-8216 TEL 075-574-2800

京都市山科区勸修寺東出町 75 からしだね館

「コロナの先へ」

理事長 坂本 正路

CIFの活動もコロナ禍によって全く冷え切ってしまいました。

本来ならば本会主催の外国からの参加者を募集する国際研修が実施される予定でしたが、まさに手足をもぎ取られるような状態の中で、何も行うことが出来ませんでした。

そうした中でも藤原望美さんがフィンランドのプログラムに参加する事となりました事は、まことにうれしいニュースです。今の状態がいつまでも続くわけではなく、やがて終息の時を迎えるでしょうが、その時は停滞していた期間を上回る活動がなされる事を心より願っております。

CIF INTERNATIONAL の動き

コロナパンデミックの影響でさまざまな制約を受けるなか、CIFは新たな歩みも始めています。2020年中に代表者会議を2回オンラインで開催しつつぎのような議題を決議しました。(1)ホームページの刷新、(2)IPEP (International Professional Exchange Program) マニュアル改訂案承認、(3)募金活動指針策定、(4)ピースプロジェクト指針案作成などで、担当の委員会や各国支部は決議に基づいて具体的な作業を進めています。これらの決議事項は、4年前から協議を重ねてきた「CIF2028 Action Plan」(2028年まで10年間の行動計画)を具体化したものです。このほか、(5)2021年代表者会議はオンラインではなく対面で開催することを決定、また、長年の夢だった(6)CIFパレスチナ創設が実現しCIF支部として入会が承認されたことも嬉しいニュースです。IPEPをオンラインで開催する試みについても話し合われました。決議事項の概要をご報告します。

第1回代表者会議 (Board of Directors Meeting) 6月13日(土) 20~23時(日本時間) 出席者 25名(日本は委任状出席)

【決議事項】

(1)ホームページ(HP)の刷新
この事業でわれわれが目指しているのはHPが活用されて国際研修参加者が増えCIFを託す若い会員が増えること。HP作成は、予算上限7000ユーロで台湾のウェブ会社に委託することを決定した。(動画を多用したHP案が11月の代表者会議で披露された。)

第2回代表者会議 (Board of Directors Meeting) 11月14日(土)・15日(日) 21~24時(日本時間) 出席者 約40名
日本からは浅野純江(代理出席)、坂岡隆司(オブザーバー出席)

【決議事項】

(2)IPEP マニュアルの改訂案承認 近年、個人情報保護法が世界的に普及したため、参加者申請書などの扱いは適切か、人権尊重は守られているかなどに留意して全面的に見直しがおこなわれた。応募者多数のため受け入れを断らなければならないIPEP主催者は、ことわりの理由を付記することとし、その表現が人格否定とならないように吟味することなどが明記された。

(3)募金活動指針策定 第1部 CIFの募金活動の目的と基本方針、第2部 募金活動の進め方と留意点の2部構成となっている。内容結論として強調されたのは、「CIFの活動資金としてクラウドファンディングなどで募金をしてはどうかという意見がたびたび寄せられるが、なぜ会費以外の財源が必要なのか、資金を何に充てるか、多大な労力を要する募金活動をCIF会員がボランティアで行なえるか、など現実的なことをよく考え共通認識をもつ必要がある。CIF会員こそが最高の支援者(Supporters)、寄付者(Donors)であることを認識しよう。」ということだった。

(4)ピースプロジェクト指針案作成 ピースプロジェクトは数年前に立ち上げられた。今後、財源は国際大会の登録料のうち1人5ユーロを充当し、世界の紛争地域からCIFの大会やIPEPに参加する専門職の一部経費を助成することを主な目的とする。指針案はプロジェクトの運用を具体的に規定するもので、2021年代表者会議までに検討を重ね、同会議で採択する予定である。

(5)2021年代表者会議 8月、エストニア・タリンにて開催予定

(6)CIFパレスチナの創立・入会を承認 CIFパレスチナは会員9名で創立、うち7名が役員。定款と会員名簿が提出された。



第2回BD会議の様子（ZOOM） ↑

2021年IPEP募集開始のご案内 オンライン開催は、

オーストラリア（4/15-20）、

スウェーデン（5/3-8）、

フィンランド（5/8-23）、

現地開催はイスラエル（10/3-17）、

オランダ（11/12/-27）。

詳細は

https://www.cifinternational.com/?page_id=17

各支部の募集要項をご参照ください。

- 「第33回CIF国際大会（オンライン）」
開催予定：2021年11月

（浅野純江 記）

FINLAND 研修のこと

2020～21 フィンランド

藤原望美

（大阪府社会福祉専門職）

（注記）

2020年度FINLANDプログラムに参加が決まっていた藤原さん。残念ながらコロナの影響で中止になりました。その後、フィンランドチームの努力下、オンラインでの研修を今年5月に開催することとなり、藤原さんもあらためてこれに参加されることになりました。ぜひ実のある研修にしてほしいです。藤原さんにこの間の感想を綴っていただきました。

4、5年働いたら辞めて留学するんだ、と社会人を始めましたが、被災したこともあり気付けば勤続30年。福祉現場の仕事はいつも刺激的で耽溺してしまい、辞めそびれて今日を迎えています。

CIFのお働きについて学んだのは第59回日本キリスト教社会福祉学会の席上でした。2018年の大会は和泉短期大学を会場として行われ、情報交換会でこの派遣制度についてお教えいただきました。ステキなお話でしたが、旅行ではなく数週間の研修となると2つ心配がありました。長期の休暇取得と語学力です。

休みについては頭の切り替えは早かったです。「やりたいことはやりたい時にやりたいだけやりたいように行わなくては…」と思えるようになっていたことに加え、職場の上司がサッとサインしてくれたこと。ありがたいことでした。

語学力は派遣先の「話を聞こうとしてくれる国民性」に期待しつつ、英会話スクールに通いました。上達している感覚は正直なところ皆無で、ネイティブのグループに入ると全くついてはいけませんが、要はコミュニケーション取れたら良いんだ、と開き直れたことは大きかったです。

2020年の5月が派遣月であり、数ヶ月前には文字通り胸弾ませてフィンエアーのチ

ケットを取りました。いつも世話になっている旅行会社の社員さんも、この派遣を羨ましがってくれ、準備も手伝って貰えました。

ところが…皆さまご存知の通り、世界的なパンデミックで全てが白紙になりました。

「これから憧れのフィンランドに行くのだ」とはやる気持ちは一瞬で萎え、目標を無くした心地がしていましたが、それと反比例して職場でのコロナ対応に巻き込まれ、それはそれで充実した5月を過ごしました。在宅ワークが主流になる中、施設現場の仕事は「人類最後の日までオープンしておく」気構えで通常通りの通勤生活を送りました。通勤電車の中がガラガラ状態でも、それぞれの首長から県境を越えるなど言われても休めるものではありません。この中で、「何を大切に生きていくのか」が明確になりました。与えられた健康を守ること、家族や同僚の健康に気遣うこと、職務を全うすること。なぜ今日も生かされてあるのか…いのちについてよくよく考えられたことは、この1年間の賜物です。

この度、オンラインではありますが、CIFフィンランドのプログラムに参加できること、大変光栄なことだと受け止めております。皆様のお祈りに加えていただけたら幸いです。

CIP 研修と現在

梶村 慎 吾
(CLEVELAND 1996)

1

現在、人類は百年（場合によっては数百年）に一度位しか経験してこなかったパンデミック（世界的流行病）に苦しんでいる最中です。現時点（2021年2月28日の新聞による）では、新型コロナウイルスの感染者数は全世界で1億1千万人超、死者数2百50万人超という苦難を人類にもたらしています。現在ようやく新型コロナウイルスに打ち勝つ有効なワクチンの接種が一部の国で始まりました。日本でも医療従事者へのワクチン接種が始まったばかりです。

人類の歴史において、我々が知っている範囲でも何度か流行病蔓延によるパンデミックを経験してきましたが、そのたびごとに人類はそのダメージから立ち直ってきました。有名な例としては14～15世紀のヨーロッパで始まったルネッサンス（文芸復興）で、それまで苦しんできた流行病を乗り越えて立ち直った西欧社会の「再生」「復活」を意味する表現となっています。日本でも古くは古典の「日本書紀」にパンデミック的疾患大流行の記述があります。近くは第一次世界大戦時のヨーロッパで蔓延したインフルエンザも有名です。今回の新型コロナウイルス大流行によるパンデミックは、今では科学の力により克服されつつあります。

2

このような時代に遭遇した私たちは、それまでと違った「今だから」という生き方を強いられています。外出するときはマスクの着用、食事中は話さない、他人との握手は厳禁、アルコール消毒の励行、多人数が集まることは避ける、等々。

私は CIP（現在の CIPUSA）の研修（International Professional Exchange Program）を1996年11月から97年3月までの4か月間アメリカのオハイオ州クリーブランドで体験しました。今から24年前の経験ですが、私にとって多くの有意義な学びの場を用意していただきました。昨年2月発行のニュースレターでその一端を書きました。研修場所はジュドソン・リタイアメント・コミュニティという高齢者施設でしたが、利用者は毎日のように身体運動に励んでいました。前回書きましたように、その施設のモットーは「人生の後半を豊かに生きるために必



「重要な要素」として3点を挙げて実践していました。①健康を維持するための身体運動②知的刺激③社会との密接なつながり

私はその考えに感銘を受け、日英両文で「人生を豊かに生きるために必要なものは何か理想の高齢者施設を求めて」という本を出版したことは前回書きましたが、今回のコロナ禍でできるだけ他者との接触を避けなければならない社会情勢となってしまったため、運動をする際にもできるだけそのことに気をつけなければならないと考えました。その時、頭に浮かんだのはシュドソン・リタイアメント・コミュニティで毎日のように利用者が行う体操の姿でした。その姿を思い出しながら、今ではできる範囲で自宅での体操を行うように努めています。

この施設で私は多くのことを学びました。この施設の法人の会長・Ms. Cynthia .H. Dunnさんとは20年を超えて手紙のやり取りがありました。つい最近退任されました。前ページ写真は、シュドソン・リタイアメント・コミュニティの利用者の運動中の姿を前記拙著76頁から転載したものです。

以上

Column

坂岡隆司会員の責任運営する福祉事業所「からしだね館」(CIFの事務局所在地、社会福祉法人ミッションからしだね)では、コロナ禍で昨年未閉店したキリスト教書店を引き継ぎ、この3月より、障害者の就労支援事業という面も併せ持つ「ブックカフェ」として再始動しました。(下、店内風景、右、関連記事写真)



2021年度総会について

例年5月に行っております総会ですが、今回もどのような形にするか、検討中です。決定次第お知らせします。

「CLCからしだね書店」開店 『福祉と福音』発信するブックカフェ



本屋とカフェがコラボした店内
障がい者の就労支援の場にもなる



坂岡店長

京都市山科区の社会福祉法人ミッションからしだね(坂岡隆司理事長)のからしだね館に「CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル」が3月1日にオープンした。コロナ禍で昨年4月から閉店を余儀なくされていた同館のカフェ・トリアングルも再開。書店とカフェがコラボしたおしゃれなブックカフェの誕生だ。

閉店した「CLC京都店」からパトを引き継ぎ、国際CLCに法人として加盟し、新たに京都の文芸伝道の働きを担うことになった。同時に障がいのある人たちの就労支援事業の一環であり、ミッションからしだねのベースにある「福祉と福音」を具現化する働きでもある。

2月26日に行われた閉店記念礼拝でメッセージに立ったWBC・洛西キリスト教会の奥村拓也牧師は、「Iコリント12章22、31節から「体の各機関のように、配慮し合い、いたわり合う共同体こそ教会。一部が苦しみは全体が苦しむのです。CLC京都店は京都の宣教を担う体の一機関でした。その働きが節目を迎えまし

た。新たなCLCを支えるのは、京都のミッションです」と、呼びかけた。

【編集後記】

コロナ禍の一年があっという間に過ぎました。秋に予定していた第3回日本プログラムも含め、世界中全てのIPEPが中止または延期になりました。コロナの中で、会議や研修の持ち方も大きく変わりました。フィンランドやオーストリアなどのオンラインによる研修も新しい試みです。こんご世界は、私たちの生活は、そしてCIFはどうなっていくのでしょうか？オンラインの便利さも大いに生かしつつ、リアルでなければならぬものは守って行く、そんな知恵と努力がこれからますます必要になって来るのでしょうか。(TS)